



羅針盤

COMPASS

急増の一途を辿る「要介護認定者数」をどう読むか

05年の介護保険法改正に向けて、最も目が離せないのが「要介護等認定者」(以下、「認定者」)の趨勢である。

ハヤカワプランニングが独自調査した「認定者」の「第1期計画」と「実数」を比べてみると、00年度(1年目)は、268万人(計画)に対して13万人少ない255万人(実数)と計画比4.7%の減。

2001年度(2年目)は、277万人(同)から一転して297万人(同)と前年度42万人の増。「計画」に比べ「実数」で20万人、「率」で同7.1%の増であった。2002年度(3年目)は、「第1期計画」の最終2004年度(5年目)に305万人(同)と見込んだ数をはるかに超え、344万人(同)となった。

今春、スタートした「第2期計画」では、2007年度までの5年間、さらに93万人が増えて、437万人を見込んでいる。

ところが、「第2期計画」の初年度、2004年3月末に見込んだ352万人は、03年6月に357万人を突破して、12月には375万人に達する模様だ。

現在のペースが続く限り、5年後の437万人は470万人前後にまで膨れ上がるものとみられる。

厚労省が旧厚生省時代に「寝たきり・痴呆性・虚弱高齢者の将来推計」として示した値は、「280万人(2000年度)、390万人(2010年度)、520万人(2025年度)」である。

現状では、2010年度の390万人は2004年度中、2025年度の520万人は15年早く10年度中、それぞれ突破する(現在の要介護認定の仕組みが続く限り)勢いにある。あくまでも机上の計算に過ぎないものの、「認定者」の増加は、「負担」と「給付」がともに膨らむ。まして、「認定者」の読み違えは、介護保険制度のみならず、医療、年金、社会保障制度などに致命傷を与える危険を孕むとあってよいだろう。

「要支援など軽度者」を厄介払いする拙速論も出てきたが、「認定者」をこれ以上増やさないための足切り策では、先行きがおぼつかない。

「2015年の高齢者介護」を見据えるには、「小規模・多機能」、「ターミナルケア」、「パワースタイル」など各研究会課題ばかりではなく、間近に迫った「ポスト520万人」を受けて立つ大胆な介護ビジョンと、そのためのプラットフォーム(=21世紀社会に欠かせない基盤構築)づくりが欠かせない。



(有)ハヤカワプランニング 代表
早川浩士氏

1953年生まれ・60歳・中央大学卒業・経営コンサルタント・中小企業大学校講師。
著書「介護事業の最新動向と経営展望(日本医療企画)」他多数。現在「最新介護経営 介護ビジョン」にて、「経営(経営)のツボ」を連載中。
<http://www.hayakawa-planning.com>